

第3章 H25年調査とH30年調査の結果を用いた読書活動の経年比較

1. 目的

平成25年調査の結果と平成30年調査の結果において、重複する項目を年代ごとにクロスさせ、経年比較をした。

2. 方法

前述したマイボイスコム株式会社のモニターである全国の20～60代の男性2,500名、女性2,500名、計5,000名（各年代で男性500名、女性500名）を分析対象とした。同様に平成25年調査は、20～60代の男性2,623名、女性2,635名、計5,258名を分析対象とした。そして、両調査の一致する項目のクロス集計表を作成した。

3. 結果

①1ヶ月に読む本（紙媒体）の量

1ヶ月に読む本（紙媒体）の量を経年比較すると、年代に関係なく0冊の割合が高くなっていった。特に、「0冊」と回答した割合が最も高くなっていく年代は、20代（25.1ポイント増、52.3%）であり、平成30年で「0冊」と回答した割合が最も高い年代は、30代（54.4%）であった。

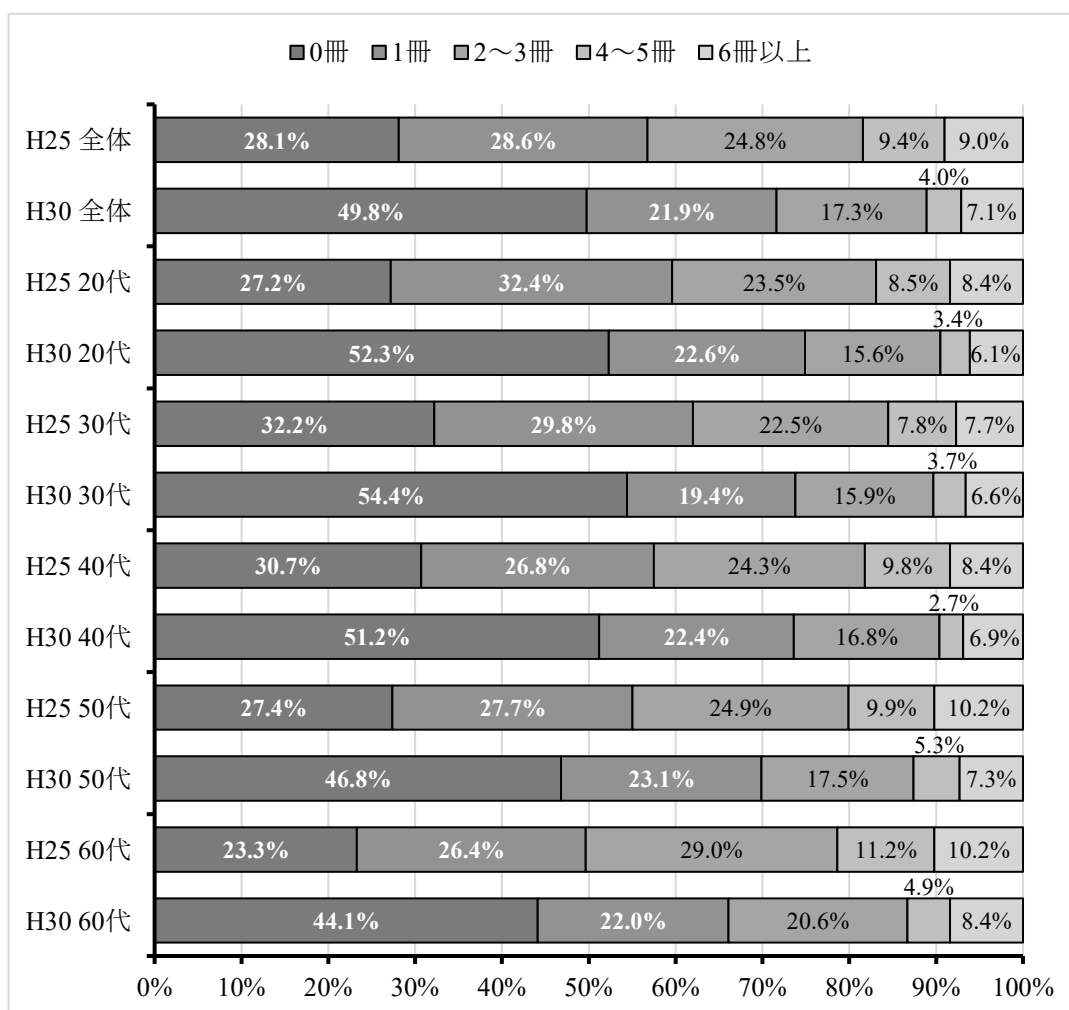


図3-1. 1ヶ月に読む本（紙媒体）の量の経年比較（H30：各年代n=1,000、全体N=5,000、H25：20代n=1,049、30代n=1,056、40代n=1,051、50代n=1,053、60代n=1,049、全体N=5,258）

②1ヶ月に読むマンガの量

1ヶ月に読むマンガの量を経年比較すると、40代から60代は大きな変化がみられないが、20代から30代は0冊の割合が大きく高くなっていった。

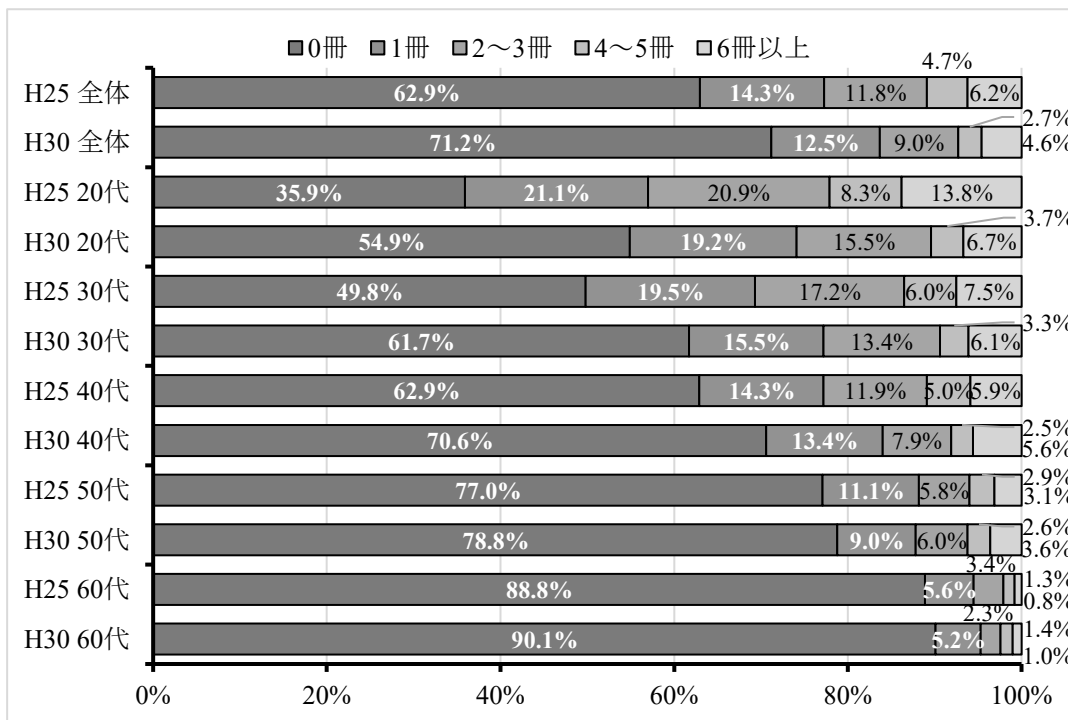


図 3-2. 1ヶ月に読むマンガの量の経年比較 (H30 : 各年代 $n = 1,000$ 、全体 $N = 5,000$ 、H25 : 20代 $n = 1,049$ 、30代 $n = 1,056$ 、40代 $n = 1,051$ 、50代 $n = 1,053$ 、60代 $n = 1,049$ 、全体 $N = 5,258$)

③1ヶ月に読む雑誌の量

1ヶ月に読む雑誌の量を経年比較すると、年代に関係なく0冊の割合が高くなっていった。

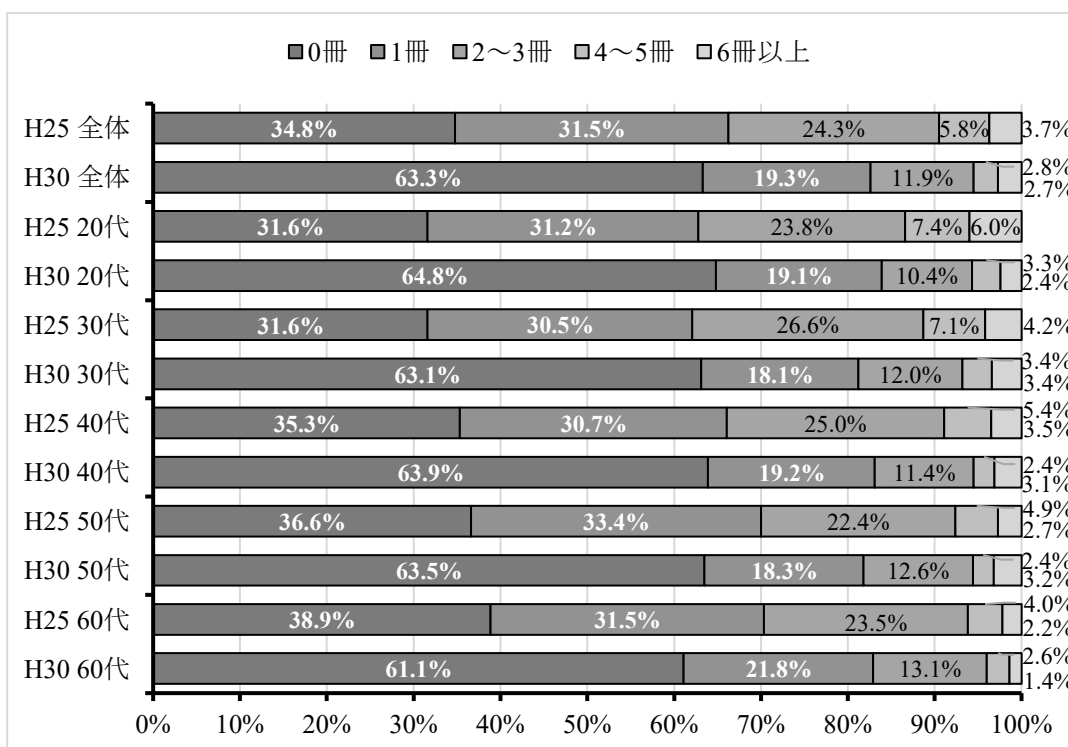


図 3-3. 1ヶ月に読む雑誌の量の経年比較 (H30 : 各年代 $n = 1,000$ 、全体 $N = 5,000$ 、H25 : 20代 $n = 1,049$ 、30代 $n = 1,056$ 、40代 $n = 1,051$ 、50代 $n = 1,053$ 、60代 $n = 1,049$ 、全体 $N = 5,258$)

④1ヶ月に読む電子書籍の量

1ヶ月に読む電子書籍の量を経年比較すると、年代に関係なく0冊の割合が低下し、1冊以上の割合が高くなっていった。

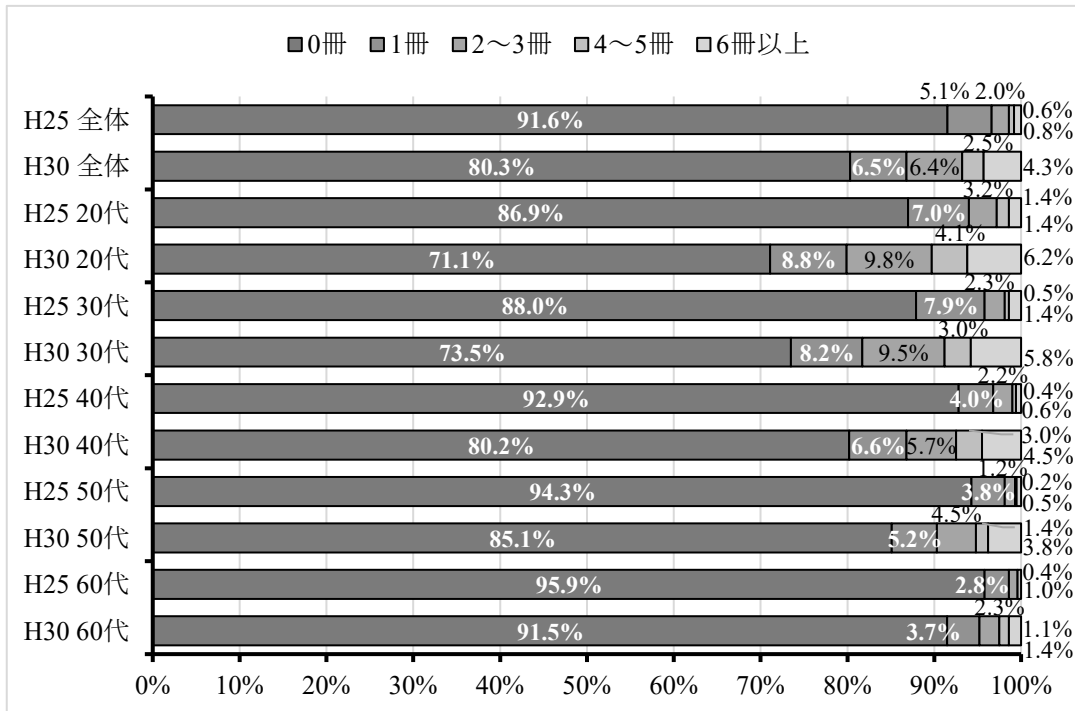


図 3-4. 1ヶ月に読む電子書籍の量の経年比較（H30：各年代 $n = 1,000$ 、全体 $N = 5,000$ 、H25：20代 $n = 1,049$ 、30代 $n = 1,056$ 、40代 $n = 1,051$ 、50代 $n = 1,053$ 、60代 $n = 1,049$ 、全体 $N = 5,258$ ）

⑤本（紙媒体）を利用した1日あたりの読書時間

本（紙媒体）を利用した1日あたりの読書時間を経年比較すると、年代に関係なく0分の割合が高くなっていった。

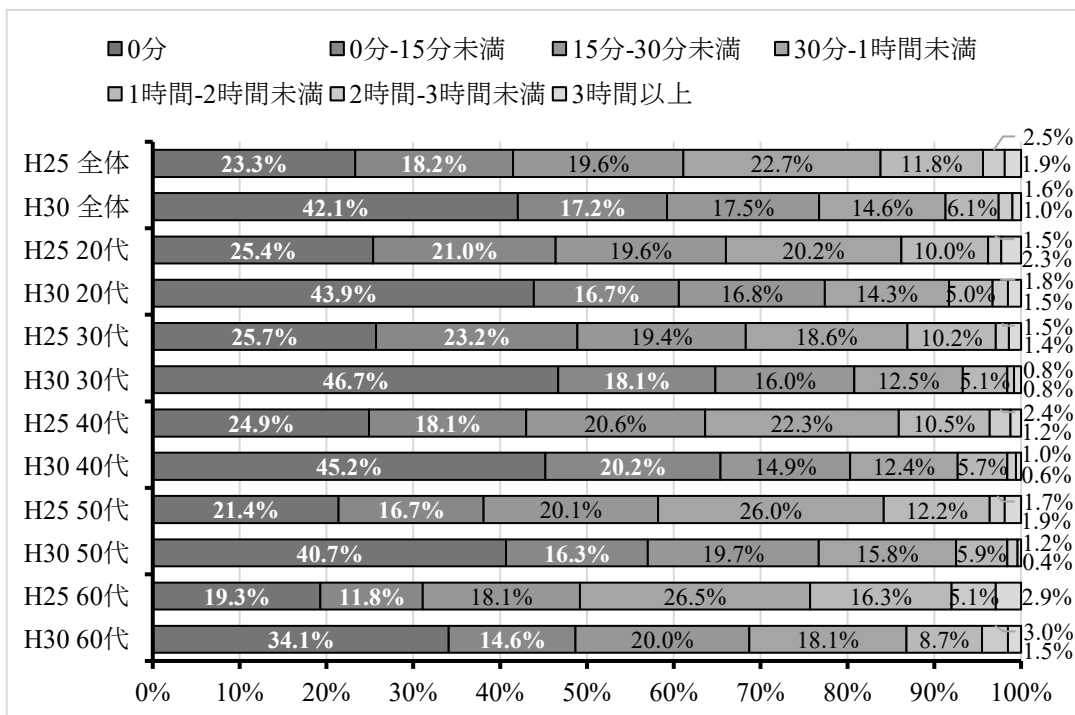


図 3-5. 本（紙媒体）を利用した1日あたりの読書時間の経年比較（H30：各年代 $n = 1,000$ 、全体 $N = 5,000$ 、H25：20代 $n = 1,049$ 、30代 $n = 1,056$ 、40代 $n = 1,051$ 、50代 $n = 1,053$ 、60代 $n = 1,049$ 、全体 $N = 5,258$ ）

⑥パソコンを利用した1日あたりの読書時間

パソコンを利用した1日あたりの読書時間を経年比較すると、20代と30代は、パソコンによる読書時間が減少していた。40代から60代は、パソコンによる読書時間が増加していた。

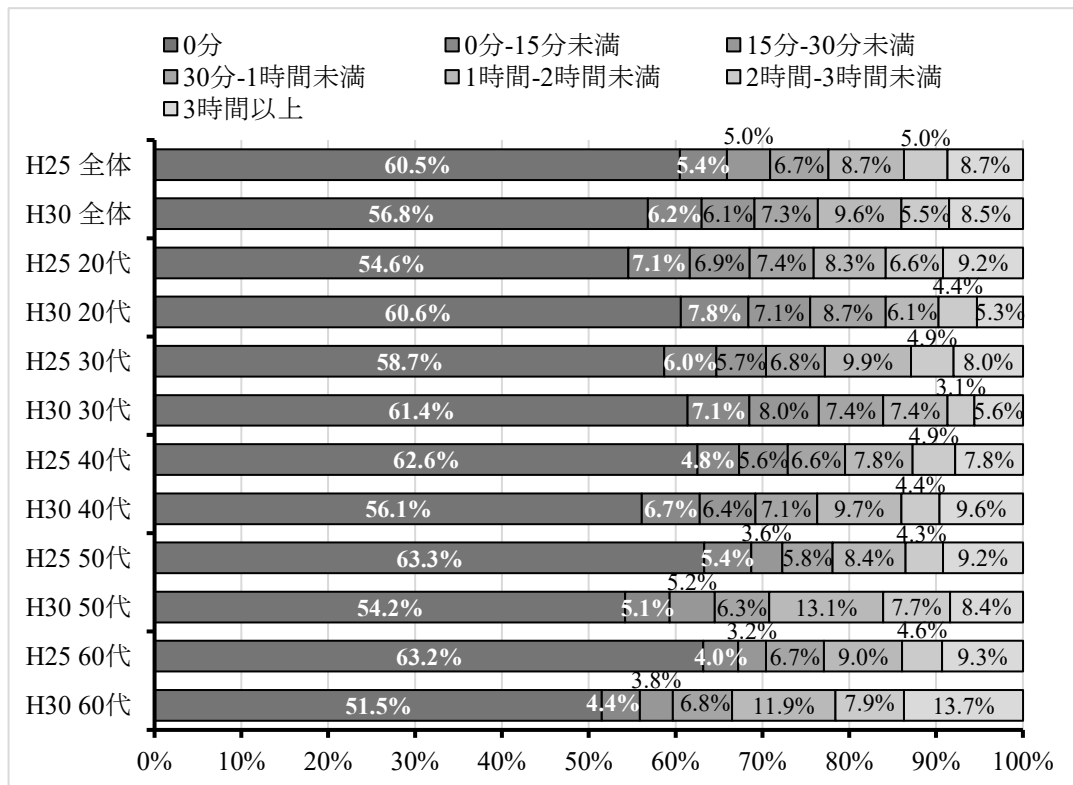


図 3-6. パソコンを利用した1日あたりの読書時間の経年比較 (H30 : 各年代 $n = 1,000$ 、全体 $N = 5,000$ 、H25 : 20代 $n = 1,049$ 、30代 $n = 1,056$ 、40代 $n = 1,051$ 、50代 $n = 1,053$ 、60代 $n = 1,049$ 、全体 $N = 5,258$)

⑦携帯電話、スマートフォン、タブレットを利用した1日あたりの読書時間

携帯電話、スマートフォン、タブレットを利用した1日あたりの読書時間を経年比較すると、年代に関係なく0分の割合が減り、15分以上の読書時間の割合が増えていた。

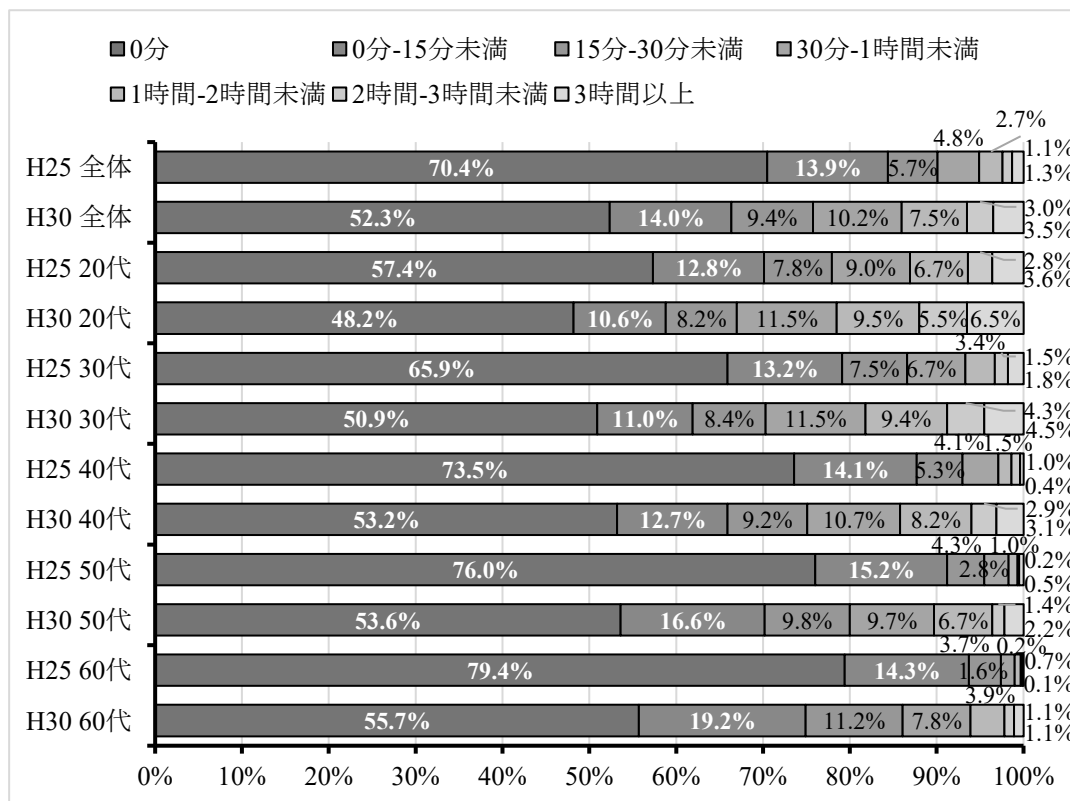


図 3-7. 携帯電話、スマートフォン、タブレットを利用した1日あたりの読書時間の経年比較 (H30 : 各年代 $n = 1,000$ 、全体 $N = 5,000$ 、H25 : 20代 $n = 1,049$ 、30代 $n = 1,056$ 、40代 $n = 1,051$ 、50代 $n = 1,053$ 、60代 $n = 1,049$ 、全体 $N = 5,258$)

4. 考察

過去の調査より、読書をしない理由として、読書をする時間がとれないことが報告されている (株式会社創建, 2019)。また近年、スマートデバイスの個人所有率の上昇が著しい (総務省, 2018)。1ヶ月あたりの本 (紙媒体)、マンガ、雑誌の読書冊数を H25 年調査と H30 年調査で比較した結果、年代に関係なく 0 冊の割合が高くなっていった。一方、電子書籍の読書冊数の割合は、H30 年においても半数以上が 0 冊であるもののその割合が低下し、H25 年調査と比較して、1 冊以上の割合が高くなっていった。したがって、本調査研究の結果は紙媒体による読書冊数は、経年に伴い、読書冊数の減少傾向が強まっていると考えられる。その一方で、スマートデバイスを用いた読書がその個人所有率の上昇に伴い、普及し始めていると考えられる。

本 (紙媒体) を用いた 1 日あたりの読書時間は、年代に関係なく 0 分の割合が高くなっていった。この結果は、前述のように紙媒体での読書が減少していることを支持する結果であると考えられる。20 代、30 代はスマートフォンを中心としたスマートデバイスの普及率が著しい。40 代以降、人の視力は落ちていくため、小さな文字を読み取ることが難しくなる。加えて高齢の場合、画面の拡大が可能なパソコンによるインターネット接続の割合が最も高い (総務省, 2018)。パソコンを利用した 1 日あたりの読書時間は、年代により異なり、20 代、30 代は 0 分の割合が高くなっていく一方、40 代から 60 代は低下していった。前述の通り、20 代、30 代はスマートフォン中心のため、パソコンを使用した読書時間が減少

していると考えられる。40代以降は、加齢に伴う老眼などの影響を踏まえ、文字を拡大し読み取りやすくできるパソコンを利用するため、読書時間が上昇したと考えられる。

また、年代に関係なくスマートフォンなどのスマートデバイスの個人所有率は高くなっている。携帯電話、スマートフォン、タブレットを用いた1日あたりの読書時間は、年代に関係なく0分の割合が低下していた。また、20代、30代は15分未満の割合も低下していた。この結果は、主要な利用ツールが変化していることに加え、20代、30代はスマートフォンで様々なことを行うため、上記の結果が得られたと考えられる。